

第3回那覇市社会福祉法人等施設連絡会（那覇地区）のまとめ

構成施設	社会福祉法人そてつ	施設長	盛島光司氏
	社会福祉法人雅福社会	理事長	兼城照美氏
		園長	兼城健一氏
	一般社団法人ハーネス	理事長	嘉手川重一氏
		医療法人正清会	事務長
	看護部長		大城盛博氏
	社会福祉法人ポプラ福社会	園長	崎濱恵利子氏
		事務	崎濱盛氏
	社会福祉法人うるま福社会	理事長	高良桂子氏
	社会福祉法人那覇市社会福祉協議会	会長	新本博司
常務		宮城哲哉	
事務局長		新垣佳子	

(そてつの会)

・ H27 地域貢献室 夏休みを利用して古蔵中の生徒にボランティア活動を受け入れ (延べ2000名を超える生徒を受け入れ) → **新入**

職員として入社 = 福祉教育

- ・ ゆいまー塾 (パンの無償提供) 不登校や学習困難な生徒を受け入れ → 高校まで入学できる子も。
- ・ 那覇市社協とピザづくり教室を実施。真地地域の子供たちの参加。
- ・ **「山城塾」 場所の提供。元校長の山城さんと協働。**
→ 学習指導・軽食の提供 (20名程度の不登校生を受け入れ)
- ・ 多子世帯の子供たちの利用が多い。
- ・ 1500個のパンの内、商品にならないものを塾生に提供。 → **1日**

1食の子どももいるのが現実。

- ・ 地域の方々からもおにぎりの提供や協力を得ている。



社会福祉法人そてつの会 施設長 盛島光司氏

社会福祉法人そてつの会は今年、法人化23年を迎えます。わたしたち「社会福祉法人 そてつの会」は、障がい者の就労の機会の提供と共に、障がい者の方々のニーズに合った様々な福祉サービスの提供と向上に努めてまいります。

—事業内容—

1. 就労移行支援事業所「ドリームワークそてつ」
2. 就労継続支援B型事業所「ドリームワークそてつ」
3. 就労継続支援B型事業所「ドリームワークそてつの実」
4. 就労継続支援B型事業所「ドリームワークそてつの森」
5. グループホーム「つぼがわ そてつの家 I・II」
6. グループホーム「うえばる そてつの家 I・II」
7. グループホーム「おろく そてつの家」
8. 指定相談支援センターそてつ

(雅福社会)

- ・平成16年に、何もない新都心で保育施設を開所。児童クラブを運営してきた。
- ・地域のごみ拾いを子供たちと実施。→福祉教育
- ・地域で仕事をしている身として、自治会や民生委員と連携してきた。
→地域の困りごとを一緒に解決してきた。
- ・中学生と子ども園とふれあい会で、中学生にも良い変化が現れる。
- ・登校しぶり支援→愛情を注いで支援。

(将来) 相談窓口が必要。困っている母親も多い。

子育てを知らない親の対処。→子どもの性格を理解して子育てすることが大事であり、そのための親支援の場が必要

- ・地域でいつでもだれでも相談できるような場

(例一担当区域の民生委員児童委員等で当番制を受け入れてもいいのでは)

- ・地域柄、転勤族が多く繋がりが希薄している地域。→受け皿が必要。



雅福社会 理事長 兼城照美氏

「愛の空間で心身共に豊かにみやびやかに育つ」

事業運営

保育型認定こども園 みやび認定こども園

保育園 みやびの杜保育園

公私連携子ども園 松島子ども園

児童クラブ みやび児童クラブ



一般社団法人ハーネス理事長 嘉手川重一氏
一般社団法人ハーネス(ハーネス)は2015年10月05日に法人番号が指定された沖縄県那覇市にあるその他の設立登記法人です。一般社団法人ハーネスは、精神科に通院する仲間たちを運営の中心に据えながら地域で暮らす赤ちゃんから高齢者まで、障害のある方や生活に困っている方々が安心して暮らすことのできる地域社会を目指してのボランティア活動センターです。

(ハーネス)

- ・自治会設立に協力
- ・かわら版を発行し、見守りを実施。
- ・子どもたちの登下校の付き添いをして、見守りを実施。
- ・通り会で、筋トレをしたり高齢者の課題に工夫を凝らしている。
- ・歩いていける距離で弁当配達をしている。
- ・令和元年の4月からは、那覇市樋川1丁目の与儀市場通り地域で自治会設立に関わり、事務局を担っています。そして地域情報誌『かわら版』を発行し、各家庭に配達しながらの見守り活動を行っています。

(うるま福祉会)

- ・ 昼夜併設の保育園を運営。県のモデル事業をして実施した。
- ・ 昔は子供の数が多かった。国際通りにあったが、人口減少がみられ20名程度が利用。
- ・ 食事の提供。夜、子供たちだけで食事をしている家庭のため子どもの居場所「たまっこやかん」を運営。現在は利用者はいないが、いつでも利用できるようにしている。
- ・ 夜間預かっている母親は、生き辛さを感じている。保育園を卒業後の夜間学童も検討。夜間保育の運営も厳しいなかで職員の協力も必要で、一緒に考えていきたい。
- ・ 放置されている子たちに支援が届くようにしていきたい。



うるま福祉会 理事長高良桂子氏

- ・ 地域で最も身近な児童福祉施設として乳幼児保育を行う。児童の最善の利益を守り、よりよい保育を行う。玉の子保育園
定員100名 (0歳児～5歳児)
 - ・ 玉の子夜間保育園
定員20名 (0歳児～5歳児)
- 一時的保育事業 (自主)
夜間保育事業

(久田病院)

- ・精神科病院でも、福祉関係の職種が多くいる。医療の対象者でなくても、切り捨てるのではなく、診断がつかなくても困りごとを吸い上げている。
- ・子どもたちの本を提供。夏休みの自由研究の材料を提供。（南部市町村広域で社協に提供）
- ・非常食の期限を早めに設定し、フードバンクに寄贈。
- ・送迎車で地域の見守りを実施している。
- ・看護学校を目指している方への無料塾を実施。8か所の高校から社会人まで幅広く利用
- ・看護学校終了後、看護師免許の取得を目指す人を対象に国家試験の学習支援を実施。
- ・重度の障害のある方の写真展の実行委員にボランティアとして関わっている。



医療法人正清会 事務長久田護雄氏（左）
看護部長 大城盛博氏
最新の医療を行います。地域との連携を大切にします。地域のメンタルヘルスセンターを目指します。 214床
精神科急性期治療病棟…47床
精神病棟…59床
認知症治療病棟…48床
精神療養病棟…60床
[介護老人保健施設うりずん](#)
障害福祉サービス就労継続支援B型
ライフサポート久田。

(ポプラ福祉会)

- ・ 地域のお祭りに子どもたちと参加。世代間交流の機会となっている。
- ・ 警察署、防犯協会交通安全出発式等の園児の参加（交通安全チラシ配り）
- ・ 親子で給食体験を実施。子育ての悩みなどを聞く場。
- ・ 地域の銀行・企業、老人センター等を回り、園児が歌を披露—企業の方も園児が来ることを楽しみにしている。
- ・ 中学生の実習の受け入れ。→将来の担い手。反抗期でも子供たちと触れ合うことで心を開いて、やさしい子に育ててほしい。
- ・ 老人センターとのお年寄りとのふれあい—お年寄りへ元気を与え、子供たちにやさしい気持ちを育んでほしい。
- ・ 園庭の開放を行いたい。（子育てに不安や悩みを持つ方たちの憩いの場の提供）



ポプラ福祉会 園長 崎濱恵利子氏
乳幼児の生涯に渡る人間形成の基礎を培うきわめて重要な時期に、その生活時間の大半を過ごす場であるため、全ての子どもが常に適切な養護と教育を受け、安定した生活を送り充実した活動ができるように、柔軟で発展的な教育・保育を実践しています。**ポプラこども園 本館（0歳～2歳児）ポプラこども園 別館（3歳～5歳児）**

- ・那覇市は規模が大きく、行政区毎に課題が異なることがわかった。
- ・特に、難しい課題とも思われる福祉人材の育成について、どの施設も大事なテーマとして捉えており、県社協としても、市町村社協とタイアップして福祉教育の分野と工夫した、法人間連携のヒントが確認できた。
- ・今日の会議も、法人間連携の前に社協とのつながりが大事であることを理解いただけたと思う。
- ・是非とも公益的な取り組みの意義について各法人は、役職員一体となって話し合っていたきたい。



沖縄県社協 地域福祉部大城利公氏



まとめ 社協のCSWの所見

社会福祉施設の地域貢献の可能性のヒントとして、いくつかのポイントが見えてきた。①地域の身近な相談できる拠り所②技術の提供（介護、医療、分野ごとの専門集団の力を活かす講話や出前講座③食の提供等、施設機能の活用④施設の開放等

新たなことをやるというのではなく、今持っている力を活用していただきたい。

⑤地域課題として、「担い手不足」が挙がるが、子どものうちからの福祉教育が将来的に地域の担い手として活躍することが期待できる。

那覇市社協本庁地区新垣聡美（左から）首里地区神田貞幸、CSW統括主任仲程大輔、本庁首里補佐玉城里恵